
バカと頭脳とちっこの

カラン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと頭脳とちっこいの

【Nコード】

N1687BA

【作者名】

カラン

【あらすじ】

文月学園に転校してきた、佑野春真・佐藤夏樹・天田遊星。

彼らが試召戦争に革命を起こす!? 「めんどくせーのは嫌いだ」

「だれがちっこいのだーっ!」「まったく騒がしいわね…」

波乱と友情のバカテスオリジナルストーリー!

オリキャラ設定(前書き)

初めましてカランです。

駄文ですがお付き合いください。

オリキャラ設定

佑野 うつの
春真 はるま

暦月下高校からの転校生。

明久、姫路の幼馴染であり、親友。

基本めんどくさがりだが、仲間のピンチは見過ごせない人情に熱い男。

黒髪のクセつ毛で、やや長め。

(勉強以外は)頭が切れ、戦略勝負ならほぼ無敵。

二つ名「戦略王」「右皇」「雑学王」

得意教科は社会系。(雑学が生かせる)苦手教科は数学。(計算苦手)
手)他は50点前後。

召喚獣：紺(黒に近い色)の着物に下駄、帯の左側に日本刀。

佐藤 さとう
夏樹 なつき

春真と同じ、暦月下高校から転校。

秀吉、優子と幼馴染。秀吉を男と見ていて、恋心を抱いている。

金髪のセミロング。(小山さんぐらい)

5カ国語(日、英、独、中、伊)を話せる。胸は無きにあらず。
Bカップぐらい?)

二つ名「知識王」「左皇」「黄金の風」

得意教科は英語。苦手教科は保健体育。他は300前後。

召喚獣：白のマジシャンスーツにステッキ。

天田 あまた 遊星 ゆうせい

春真、夏樹たちと同じ、暦月下高校から転校。

明久、姫路、春真と幼馴染。

茶髪でショート。(イメージは秀吉)童顔。

背が小さい(150センチメートル)が武術の達人。本人は背が小さいのをわりと気にしている。

二つ名「リトルオーガ」「二重」

得意教科は理科系、苦手教科は英語。他は50点前後。

召喚獣：柔道着(黒帯)に、両手足にバンテージ。

この作品の試召戦争では、現国・古典・数学・世界史・日本史・
地理・科学・物理・英語・保体の10教科です。

オリキャラ設定（後書き）

言い忘れました。更新スピードも結構遅いです。

プロローグ：お年寄りには敬意を払え（前書き）

初めの話なので長いかもしれませんが。

プロローグ：お年寄りには敬意を払え

俺は今、世にも奇妙な（いや貴重でもあるが）体験をしている。
なぜなら……………

「というわけだ。わかったかいガキども」

「なぜなら俺は今、老婆の妖怪が学園長をやっている学園にいるのだから」

「いきなり失礼だね（でしょ）！！」

「はっはっはっは。半分冗談ですよ」

「半分てどこなの！？」

「んー、老婆のどこ？」

「妖怪は否定しないのかい！？」

「そもそも老婆もあんま否定しないけどな」

「つくづく腹の立つガキだね……………！！」

状況を説明しよう。

俺は佑野春真。(うのはるま)
前の学校でいろいろあって、文月学園に転校してきた。
いわゆる普通のいたずらっ子だ。

「問題児の間違いでしょ？」

今、隣でつつこみを入れた女子が佐藤夏樹さとう なつき
きれいな金髪で、整った顔立ち、落ち着いた雰囲気から結構、いや
かなりモテる。

「て言うか、問題児でもまだ優しい表現だよね」

こいつは天田遊星。(あまた ゆうせい)
小柄(婉曲表現)な体格。少し高めの声に子供っぽいしゃべり方。
童顔も相まって、小5にしか見えん。

9

「本題に戻すよ。あんたら3人はFクラスに行ってもらおう」
「待ってくれ、妖怪。「誰が妖怪だい！」なんで俺たちがFクラス
なんだ？」

俺や遊星はともかく、夏樹がFクラスはおかしい。よっぽどの理由
が

「決まってるじゃないか。そのほうが面白いだろう？」

「ふっざけんなー！真剣に考えた俺がバカみてーじゃねーかー！
！」

「実際にバカじゃないかい？」

「なんだと！そんなこと

ある………！」

「あるじゃん」

「まあ、代わりと言っちゃなんだが、腕輪をくれてやるよ」

「腕輪？」

「これさ」

そう言っつて妖怪がとりだしたのは

黒・銀・金の腕輪？

「何だ、それ？」

「かっこいい……！」

「綺麗……」

訝しげな俺とは対極に、感嘆の声を上げる二人。

「これは見ての通り腕輪さ。試召戦争で役に立つよ。」

「じゃ、俺は黒で」

「ぼくは金がいいな」

「それじゃ私は銀ね」

「効果はそれぞれに渡した紙に書いてあるからね。話は以上だよ。さっさと行きな」

「失礼しました」

「じゃあな妖怪」

「最後まで失礼なガキだね！」

Fクラスか……あいつがいるかもな。

ブローグ：お年寄りには敬意を払え（後書き）

誤字・脱字・修正して欲しい所・感想等お待ちしています。

第1話…いきなりの黒倒って、普通の倍入…むよね…（前書き）

たぶんずっとこの長さで行くと思います。

第1話：いきなりの罵倒って、普通の倍へこむよね…

第一問：化学

以下の問いに答えなさい。

『調理のために火にかける鍋を制作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を一つ上げなさい』

姫路瑞希・天田遊星の答え

『問題点……マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応するため危険であるという点。』

合金の例……ジュラルミン』

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目というひっかけ問題なのですが、君たちは引っかけかりませんでしたね。

土屋康太の答え

『問題点……ガス代を払っていなかったこと』

教師のコメント

そこは問題じゃありません。

吉井明久の答え

『合金の例……未来合金（すごく強い）』

佑野春真の答え

『合金の例……オリハルコン（ すごく強い）』

教師のコメント

すごく強いと言われても。

「うわゝ、すごい〜」

「何だこの馬鹿でかい教室は……?」

今俺たちは「2 - A」と書かれた教室の前にいる。

「うわっ！すごい絨毯だな。しかも高そうなシャンデリア！」

「見てみて！あのお菓子おいしそう！」

「はしゃぎすぎよ……恥ずかしい……」

「いやだって、スゲーじゃん？」

「だからって子供じゃないんだから……」

すごいものを純粹にすごいといって何が悪い！

「ともかく、早く行くわよ」

「はい」

「わかったよ」

「まあ、Aでこんだけすごいってことは、Fもぶつっだよな〜」

「ま、つつても、普通の机とすだろ」

〃〃数分後〃〃

「「「ここは廃屋なの（か）！？」「」

こりゃあ酷い……。

まず何が酷いって、醸し出す雰囲気酷い。ってか、かび臭い。それに、2-Aと違って「2-F」のプレートが今にも終えそうな木の板だ。

決定的なのは廊下側の窓。なんで障子なんだよ！？

「どうしよう。転校してきたばっかで何だけど、もう転校して？」

「同意」「」

かといつても、どうにもならん。前に進め！ポジティブに行け！

ガラツ「失礼しま「早く座れこの蛆虫野郎っ！」「なんで！？」

俺、何かしたっけ！？

「ハルを蛆虫呼ばわりしたね？」

遊星から黒いオーラが見える……………

「待て待て待て！人違いだった！」

「ホントに？」

「本当だ！」

「じゃ、許す」

胸をなで下ろす赤髪。よく見ると、でけえな。180くらいか？そ

れに無駄のない筋肉。ボクサーみてえな奴だな。

俺が相手を観察していると、

ガラツ「すいません。ちょっと遅れちゃいましたっ」

「早く座れこの蛆虫野郎っ！」

「台無しだっ！」

赤髪の言う人違いが来た。

「おいテメふざげんな！お前のせいで、転校初日に不登校になると

こ　　あれ？」

こいつは　　！

「ええっ！？よく分かんないけどゴメ「明久！」へ？」

愛すべきバカ

俺の親友がそこにいた。

第1話…いきなりの罵倒って、普通の倍入こむよね…（後書き）

「読みづらい」という方は感想どうぞ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1687ba/>

バカと頭脳とちっこの

2012年1月6日11時46分発行